

須山 敬大

所属大学：佐賀大学 理工学部 都市工学科

県内インターンシップ先：(株)ミゾタ、(株)ワイビーエム

留学先：アムステルダム、ロッテルダム（オランダ）

留学期間：2017/9/20～2017/10/17（4年次）

受入機関名：Weather Plus Communication



活動概要と成果

ウェザー・プラス・コミュニケーション・デザインにて、オランダの水害対策、延いては都市計画について研究を行った。資料研究が主で、佐賀の水環境的な都市計画とオランダの水環境的な都市計画を比較した。

ヨーロッパやアメリカでは計画的なまちづくりに優れ、オランダは特に水環境の分野で優れている。これは、都市計画に対して長期的で俯瞰的な視点を持っているからである。この考え方やスタンスは日本が学ぶべきものだ。

そして、水害対策に関しては、オランダの「Room for the River 計画」という、既存の堤防を改修して河川氾濫を防ぐ計画を詳しく調査した。この計画が同じく低平地で堤防が多い佐賀で適応可能かどうかを卒業論文にて検討した。

結果、部分的には適応可能だが、急峻な山系と有明海に挟まれた佐賀は独自の水害対策が必要である。

日本発信プロジェクト活動概要と成果

〇お土産としての手ぬぐいプレゼント・トビタテ普及のための名刺

ー実行したこと

留学が短期間であったため、イベントの開催など大掛かりな発信プロジェクトは難しかった。そこで、日本およびトビタテ留学 JAPAN の広告的な発信を行うことにした。インターンシップ先やゲストハウスでお世話になる方々に必ず日本について聞かれると思ったので、日本の伝統や精神性などを伝えるアイテムとしても優れ、実用的なお土産である手ぬぐいをプレゼントした。トビタテ!留学 JAPAN の普及のために、お会いした方々にロゴが入った名刺を配った。

ー成果・気づいたこと

留学中にお世話になる方が事前にわかっていたので、その分と少し余分に手ぬぐいを

持って行った。日本の個性や精神性を説明するのに手ぬぐいは万能であった。実用的だったのでゲストハウスで早速使ってくれていた。名前や所属、連絡先、そしてトビタテの情報が記載された名刺は初対面時に非常に役立った。ビジネスシーンでの名刺の重要性を感じた。また、これをきっかけにトビタテや日本の留学事情を話すことになったので、名刺の作成は効果があったように思う。

留学中及び帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと

「情報収集とその分析、目的に沿って活用・応用する力」

留学の目的の一つが卒業論文の資料収集だった。佐賀とオランダの水害対策を比較するために膨大な資料を扱わなくてはならなかった。インターンシップ先からいただくデータや個人で集めた過去の論文などを整理整頓し、分析する必要があった。

また、論文で使えるデータを抽出してまとめなければならなかった。留学、そしてその後の卒業論文製作で、過去最大のタスク処理を成功させた。

あなたにとっての留学の価値

・主体性が身につく

留学計画の行き先や期間、目的はもちろん、事前と事後の準備や研究をすべて自ら行わなくてはならない。トータルで留学をデザインする必要があるので、自然と主体性が養われる。

・トビタテ生とのつながり

事前研修、事後研修を通して多くのトビタテ生と出会った。各々異なった目的、問題意識を持って留学に臨んでおり、ディスカッションをするだけで刺激になった。門外漢な分野の内容を聞くことで自らの視野を広げることができたし、似た分野を専門としているトビタテ生との交流は勉強になった。